

Contents

- Enjoy! Arts & Entertainment
- 01 楽器の個性が光る！
室内楽の愉しみ
- 05 WALK ON 伝説と歴史の舞台を歩く
蜷江神社 守山市
- 06 Recommended Files 今月のオススメ
マッキー イル パッキア 大津市
- KEIBUN友の会会員特典のご案内
- 07 イベント/シネマ/アート/スポーツ/ゴルフ/
旅行/レジャー/健康/カルチャー/グルメ
- 25 プレゼント/Reader's Letters

●表紙【Amazing! Museum～感動空間への招待⑨】
アヤソフィア博物館(トルコ)

キリスト教とイスラム教の両文化を包含する宗教施設を博物館として開放。モザイク文化都市イスタンブールを代表するビザンチン建築の最高傑作だ。1985年にはイスタンブール歴史地区の一部としてユネスコの世界文化遺産に登録。

室内楽の雑学
覚えておくと便利な「重奏」の呼び方

室内楽の楽曲には○重奏という名前がついている。「重奏」とは各パート1人ずつで編成されたアンサンブルのことで、古典派時代以降の室内楽は楽器の数によって分類される。二重奏はデュオ(Duo)、三重奏はトリオ(Trio)、四重奏はカルテット(Quartet)、五重奏はクインテット(Quintet)…。このあたりまでは耳なじみもあるが、さらに人数が増えると、六重奏はセクステット(Sextet)、七重奏はセプテット(Septet)、八重奏はオクテット(Octet)、九重奏はノネット(Nonet)、十重奏はデクテット(Dectet)となる。同じ作曲家の室内楽でも曲名が弦楽四重奏と弦楽五重奏ではまったく別の曲になるので注意したい。

楽器の個性が光る！

室内楽の

愉^たし^たみ

室内楽はクラシック音楽の原点。大編成のオーケストラが誕生する前は、宮廷音楽として貴族などのサロンで少人数の編成で演奏されていた。ひとつのパートをひとつの楽器が演奏するため、楽器それぞれの個性が際立つ。演奏家たちは互いの音を聴き合いながら、対話するようにひとつの音楽を紡いでいく。オーケストラとはまた違った、室内楽ならではの濃密なクラシック音楽の世界を満喫しよう。

～感性を磨く、感動を見つける～
Enjoy!
Arts & Entertainment

ほんの少しの好奇心と最初の一歩を踏み出す勇気—
扉の向こうにあなたの知らない素敵な世界が広がります

室内楽の感動をあなたに!!

新しがぎんホールで音楽を楽しむ仲間たちの会
 しがぎんホールシリーズ2015-16
 2nd season

「アンサンブルの魅力」

湖国ゆかりのアーティストが中心となりお届けする、室内楽の魅力をつぶりとお楽しみください。2015年がアニバーサリーイヤーの作曲家の作品や演奏機会の少ない珍しい作品も登場!

Vol.1 西川茉莉奈(ヴァイオリン)
 弦楽四重奏の魅力

【共演】高岸卓人(ヴァイオリン)、多井千洋(ヴィオラ)、荒井結子(チェロ)

4764 11月28日(土) 15:00開演

- 会員3,000円 学生2,000円
- 曲目/【没後50年記念】山田耕柞:弦楽四重奏曲 第1番、第2番、第3番(全曲)、【生誕150年記念】シベリウス:弦楽四重奏曲「親愛なる声」、ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第11番「セリオーソ」



Vol.2 岡山理絵(オーボエ)
 木管五重奏の魅力

【共演】林ゆかり(フルート)、白子正樹(クラリネット)、桂田菜保子(ファゴット)、大森啓史(ホルン)

4767 2016年1月31日(日) 14:00開演

- 会員3,000円 学生2,000円
- 曲目/ハイドン:木管五重奏「ディベルティメント」、リゲティ:6つのパガテル、ガーシュイン:ラブノディ・イン・ブルー 他



Vol.3 森下智穂(トランペット)
 金管五重奏の魅力

【共演】福田裕司(トランペット)、矢巻正輝(トロンボーン)、北畑聡子(チューバ) 他

4778 2016年3月20日(日) 14:00開演

- 会員3,000円 学生2,000円
- 曲目/未定



お得な3公演セット発売中!!

4770 3公演セット6,000円(一般10,500円相当)

※詳細は9ページのリスト欄参照

室内楽と一口にいても楽器の編成はさまざま。なかでも最もポピュラーで、室

Step3 室内楽の編成と名曲
 最もポピュラーな弦楽四重奏曲からはじめてみよう

ドキするような丁々発止の駆け引きもあり、室内楽ならではの醍醐味が楽しめる。来日公演などで話題になる海外のアンサンブルは、名門オーケストラで活躍するメンバーで編成されていることが多い。世界的名手が集まる、いわば「超人集団」だ。彼らの個性が響き合うそのプロセスと、匠が極めるアンサンブルの粋をぜひ楽しんでほしい。

室内楽の編成はさまざま。なかでも最もポピュラーで、室

これを基本にバランスよく弦を加えたり、減らすことで、弦楽三重奏、弦楽五重奏などの編成が生まれ、さらにピアノや管楽器を中心としたアンサンブルも登場する。木管楽器の透明感のあるやさしい

室内楽の典型といえるのが弦楽四重奏だ。弦楽四重奏の父として知られるハイドゥンがその道を切り開き、モーツァルトやベートーヴェンなど古典派の作曲家がこの基本スタイルを確立。その後、多くの作曲家がこの形式の名曲を生み出した。代表曲としてはハイドゥンの「ひばり」や「皇帝」、モーツァルトがハイドゥンに献呈した「ハイドゥン・セット」(「狩り」「不協和音」など含む)、シューベルトの「死と乙女」、チャイコフスキーの第1番第2楽章「アンダンテ・カンタービレ」は誰もが一度は聴いたことがある名曲のひとつといえるだろう。

重奏曲第7番「大公」も必聴。また、京都コンサートホール小ホールで行われる

ホール小ホール「びわ湖の午後」シリーズで演奏されるベートーヴェンのピアノ三重奏曲第7番「大公」も必聴。また、京都コンサートホール小ホールで行われる

音色や、金管楽器のダイナミックなブラスの響きによって、室内楽が描き出す情景が大きく変わっていくのも面白い!

のホールに足を運んでみよう!

誰にでも親しめる室内楽は、クラシックの入門編としてもおすすめ。ぜひ近くの

「京都ラビッシュアンサンブル」や、京都府立府民ホール・アルティで行われる「京都アルティ弦楽四重奏団」も独自のスタイルで室内楽の魅力伝えてくれる。室内楽はその編成の規模から小ホールで演奏されることが多いため、演奏者と観客の距離が近く、演奏者一人ひとりの息遣いまで聞こえてきそうな臨場感がある。ステージと客席が同じ時間と空間を共有している親密さも魅力のひとつだ。それだけに、おしゃべりや小さな物音は演奏者にまで聞こえることがあるので、聴く側のマナーとして注意を払いたい。演奏中は、演奏者のあふれ出す個性にも注目しながら、楽器同士が織りなす音楽の「対話」を聴いてほしい。

※「室内楽」は一般的に古典派時代以降に使われる用語。ヴィヴァルディの「四季」は室内楽の編成にアレンジされて演奏されることも多い。



京都市交響楽団メンバーによる京都ラビッシュアンサンブル。管弦楽の編成からなる多彩な音楽が楽しめる。11月の公演に乞うご期待(14ページ参照)。

Step1 室内楽との出会い
 小編成で味わう楽器それぞれの個性と技巧的な表現

オーケストラに比べるとおとなしいイメージがある室内楽。実は室内楽こそ、演奏者同士の情熱と情熱がぶつかり合う熱いステージが繰り広げられている。室内楽にとってエポックメイキングとなったのが、イムジチ合奏団の『四季』(ヴィヴァルディ作曲)の大ヒットである。この曲はバロック時代のヴァイオリン協奏曲で、厳密には室内楽とは異なるが、オーケストラとまた違った小編成の弦楽による絶妙のアンサンブルに多くの人が魅了され、音楽ファンの裾野が広がった。

Step2 アンサンブルの粋
 楽器同士が語り合い駆け引きをする室内楽の醍醐味!!

演奏者にとってもオーケストラとの違いがもうひとつある。音楽的なリーダーともいうべき指揮者がいないことだ。普段、指揮者のもとでその意図を重んじながら演奏しているメンバーも、それぞれが自分のパートに責任を持ち、まわりの仲間とコンセンサスをとりながら、ひとつの曲を創り上げていかなければならない。他のパートがどのような演奏をしているのか、それぞれの演奏者が一つ一つの音を互いに聴きながら、時には楽器同士が語り合うような掛け合いがあれば、ドキ

しなやかに奏でる室内楽
 豊穡の音楽世界へようこそ!!



京都アルティ弦楽四重奏団はそれぞれが一流のソリストとして活躍する実力派揃い!
 (写真左からVn.豊嶋泰嗣、Vn.矢部達哉、Vc.上村昇、Va.川本嘉子)

楽器の個性が光る! 室内楽の愉しみ



Talking About Ensemble

しがぎんホールシリーズの出演者が語る室内楽の世界

ヴァイオリン 西川茉莉奈さん

高島市出身。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学音楽学部器楽科を経て、同大学大学院音楽研究科修士課程修了。ドイツ国立ベルリン芸術大学に留学し、2012年同大学ディプロマ課程を首席で卒業。平成24年度滋賀県次世代文化賞受賞。

オーボエ 岡山理絵さん

東近江市出身。滋賀県立石山高等学校音楽科、京都市立芸術大学を経て、同大学大学院を修了。第6回津山総合音楽祭ダブルリードコンクール入賞。マンハイム音楽大学、及びヴェルツブルク音楽大学修了。

トランペット 森下智稔さん

大津市出身。私立比叡山高等学校を経て、京都市立芸術大学音楽学部器楽科卒業。京都トランペットグループ「サマーブリーズ」、「プラスパラダイス大阪」メンバー。関西トランペット協会理事。2007年より滋賀県立石山高等学校音楽科非常勤講師。

森下 ● アンサンブルでは指揮者をたてないので、金管はメロディーのイニシアチブを取るトランペットがリーダーになることが多いのですが、弦楽、木管はどうですか？

西川 ● 弦楽は第一ヴァイオリンが担当することが多いですね。第一ヴァイオリンがメロディー担当で、他の楽器がベースとなる楽曲では、自分が表現したい音楽が他の人と違うということも。

岡山 ● そういう時はどうするんですか？

西川 ● 相手の意見を尊重することもあれば、時に自己主張することもありますが(笑)。

岡山 ● 意外かもしれませんが木管はリーダーをたてないんです。それぞれが個々にメロディーを奏することもあって、音楽の前ではみんなが等しいという感じですね。

西川 ● 集団で音をつくり上げていく難しさはありますが、個性の違うメンバーで音をつくっていくのは面白い。時に予想もなかった化学反応が起こるんですよ。

岡山 ● 初対面に近い方と組むこ

演奏者だけが知っている、アンサンブルの秘密って!?

ともありますが、それでも共有できるのはお互い音楽で会話できるということ。相手に対する信頼と尊敬の気持ちも大切な。弦楽は音を合わせる際に弓の動きが見えるでしょうか？

木管や金管は息を吹く瞬間は見えない。でもコミュニケーションが成立しているから、合わせられる。

森下 ● 改めて考えると不思議ですね。呼吸で会話している感じがな。

岡山 ● 管楽器はその呼吸だけで音を出すのでフィジカル的にも大変！演奏終了後は本当に疲れます。つくづく音楽家はアスリートだなと実感します。

森下 ● 弦楽は室内楽の原点ですから、曲数が管楽器に比べて多い。楽曲の質、量の厚さは羨ましいな。金管は現代の形になつてからの歴史が浅いので仕方ないのですが。

岡山 ● 木管も同感です。でも金管のあのダイナミックな音には圧倒されますよね。

森下 ● ありがとうございます。楽器を吹くというより、自分の唇を直接震わせて音をつくる

ので、同じトランペットでも人によつて響きが違ってくる。

西川 ● 弦楽から見ると、金管のように重要な場面で最大のポテンシャルを求められる楽器は、音を出す上でプレッシャーがかかるんじゃないかと思うんですけど。

森下 ● 分かつてもらえて、すごくうれしいです(笑)。なにかと目立つので、逃げも隠れもできない。常に最高のパフォーマンスを自分に課する苦しさはありますね。

岡山 ● 極めれば極めるほど、楽器がその人の性格を形成していく感じ。まさに楽器が人をつくるんですよ。オーボエにはリードが必要なので、手先が器用な職人的な気質があるかもしれません。

森下 ● トランペットはギャングラー的かな。影響力が大きいので、失敗したら目も当てられない。でも思い通りの演奏が出来たら、これ以上ない至福が待っている(笑)。

西川 ● ヴァイオリンはメロディーを奏でることが多いためか、つい前に出て仕切りがちです。アンサンブルでは、そういう楽器の性格や出演者の表情にも注目してほしいですね。

(本文敬称略)